

あかしあ台自主防災会検討会第1回意見交換会（報告）

標題の意見交換会について、2022年6月12日（日）ウッディ市民センター大集会室にて67名（参加者61名、アドバイザー・オブザーバー6名）の出席で開催しました。

本検討会のアドバイザーとして京都大学防災研究所巨大災害研究センターの畑山満則教授をお招きし、「地域に必要な自主防災力について」と題して基調講演いただきました。

また、あかしあ台小学校長の森本真由美様、三田市危機管理課主幹の藤滝義文様、ウッディタウン市民センター長の近江功様、ウッディ地域包括支援センター所長の平岩聖二様、ウッディカルチャー地域福祉支援室の浜田明日香様もオブザーバーとしてご出席いただきました。

基調講演では、「防災とは事前の予防から避難支援を含め応急対応までの一連のことを含む」こと、「ハザードマップの表現は自然要因の想定の下に作成されているので想定を超えた場合には色別は変わる」こと、「あかしあ台は地理的状況からの風水害など災害リスクは小さいが、特に地震においては、地殻のことは大気中と事象とは異なり情報は少なく今まで知りえた断層など情報からの想定であって想定外もあり得る」こと、また、「昨今の大気の異常により発生する風速60m近い風災害は視野に入れておくことが望まれる」こと、

「危機感としてリスクをどのように考えるかの感じ方は人それぞれ異なることから“みんなが危険だと感じたこと必要だと感じたこと”は、防災力を高めるうえで取り組む必要がある」などアドバイスいただきました。

一方、あかしあ台の防災として期待されるのは、被災者の一時的な避難場所として受け入れ支援する「支援と受援」の取り組みも求められる地域と考えられるため、そのような体制を視野に入れて取り組む必要もあるとのことでした。

また、意見交換会の総括としては、災害が発生した際に、要援護者などの避難支援などにおいて個人情報取り扱い、救護や物資など支援の課題として、利己的に支援が優先されることを言及し、要援護者などの人権侵害が発生しない地域の取り組みや女性の視点からの防災支援の取り組みが求められることなど、地域での防災活動の際に考慮すべき検討事項と総括をしていただきました。

参加者の意見交換会としては、9グループに分かれて記述式のワークショップを開催しました。

テーマとしては、三田周辺では、山崎断層帯・有馬高槻断層帯・御所谷断層帯などのマグニチュード8程度の地震が発生すると想定され、三田市では震度6強程度が発生すると予想されていますが、“想定外”ということも考慮し、想定震度6強も超える地震が発

生し、被災時にはライフラインなども被災していることを視野に入れて「自分自身や家族が助かることができるのか、助かるために何が必要なのか」「自分自身や家族が支援を受けることができるのか、支援を受けるために何が必要なのか」、「地域の自主防災に感じていること」や「基調講演から感じたこと」などの意見交換をしました。

特に、人的には、近隣のコミュニティの重要性、物質的には、水の確保、トイレの確保、避難所の運営など意見がでました。そして、実質的に活動できる防災体制の確立や要支援者などに対する人権保護の在り方について課題提案がありました。

最後に、あかしあ台自主防災会検討会としては、出席していただいた皆様の意見を参考に今後の検討会を進めていきたいと思えます。また、次のことについて予定していますので地域の方々の積極的なご協力をよろしくお願いいたします。

- ・ 2022年8月自主防災アンケート調査の実施（予定）
- ・ 2022年11月27日（日）第2回意見交換会開催（予定）

テーマ：「アンケートの一時集約として報告（予定）」